# 詠む広場

## 毎日俳壇

### 井上 康明 選

樹木医に誉められてをり大夏木
東京 望月 清彦

〈評〉年輪を重ねた大樹が、夏の空へ枝を伸ばし、青葉をいきいきと茂らせている。樹木医にほめられて、誇らしげである。

富士坐る父祖伝来のキャベツ畑
平塚市 日下 光代

〈評〉先祖から代々耕してきた畑のキャベツが収穫の夏を迎えた。畑の向こうには富士山が座る。

青嵐雲の上なる山の声
唐津市 梶山 守

滝見舟木の葉のごとく揺れ止まず
町田市 枝澤 聖文

道削る音して山車の辻廻し
弥富市 富田 範保

籐椅子の軋みの誘ふ眠気かな
野田市 塩野谷慎吾

長刀鉾風を切り取り舞ひにけり
相模原市 はやし 央

夜干梅闇に耐へたる三日かな
筑西市 大久保朝一

聞き流す母の繰り言青りんご
行田市 吉田 春代

遊船や海よりスカイツリーの灯
千葉市 高橋 信子

### 片山由美子 選

幾度も風やり過ごし巣立鳥
和歌山市 曽根 澄子

〈評〉風の力を借りて巣から飛び立とうとするものの、なかなか踏み出せない。思い切って羽ばたいてしまえばよいのだが。

三分の一で後悔かき氷
和歌山市 武友 明子

〈評〉あまりの暑さにかき氷をと思ったのだが、とても食べきれない。「三分の一」に実感がある。

ものの影みな濃くなりて日の盛り
越前市 加藤 隆規

エアコンを止めて網戸の夜風入れ
光市 岩﨑 滋

音に音重ねて開く大花火
那須塩原市 谷口 弘

黒揚羽入口暗き鍾乳洞
川越市 大野宥之介

軒下にあれこれ干して梅雨ごもり
小平市 齋藤 幸枝

スワトウの使はぬままのハンカチーフ
福岡 手島喜美江

麦秋やこの世に忘れがたき人
安中市 佐藤 志乃

雲の峰目ざして歩くほかはなし
神戸市 大田 雅一

### 小川 軽舟 選

古着屋のサイトまるごと更衣
東京 福島 隆史

〈評〉古着屋の通販サイトが一斉に夏服になった。「更衣」の季語の使い方として無理を承知でネット上に季節感を見いだした。

老によきへなへなの風古団扇
岸和田市 妙中 正

〈評〉「へなへなの風」のおかしみ。長年使ってくたびれたうちわの風が老いの身になじむ。

終点は海の鳴る町夏帽子
大野城市 野分 のわ

ソーダ水妻と飲みたしもう一度
大阪市 福井 天八

薫風やカンペルライン水平に
桐生市 中村 正人

老鶯や方位磁石に傷一つ
米子市 長田 遼平

白シャツに孕む光や風青し
姫路市 三木 崇弘

コップ酒鰺の叩きを前にして
鈴鹿市 岩口 已年

山小屋の夏炉は燃えて旅の日々
三鷹市 羽継原円丘

雨戸越し響く雨音梅雨に入る
所沢市 白川真記子

### 西村 和子 選

子鴉の供花ぬく遊び覚えけり
大阪 芹澤 由美

〈評〉くちばしで一気に、墓地の供花を実に巧みに引き抜く。食べるわけではないので、子ガラスにとっては面白い遊びなのだ。

麦秋の一本道をペダル踏む
福岡 手島喜美江

〈評〉麦が実った大地が視野に広がる。自転車をこぐ爽快感と刈り入れを待つ麦の乾いた匂い。

雲間より差し込む薄日花樗
長浜市 中島 正則

塩のみでまづは頂く初鰹
神戸市 田中 忠士

水底を日の影をどる立夏かな
加古川市 中村 立身

捕虫網新幹線の中走る
兵庫 小林 恕水

小満の雨しづかなる一日かな
西宮市 平田 あい

棚雲の上に乗りたる梅雨の月
所沢市 堀 正幸

五月晴貨物列車の汽笛二度
磐田市 大石 志づ

葉桜に隠れし小店団子食ふ
北杜市 井口 和

### 加藤 治郎 選

存在と無を回りつつ観覧車ぽろーんぽろーんとほどけ消えゆく
垂水市 岩元 秀人

〈評〉観覧車は存在と無の領域を回っている。やがて消えてゆく。無が存在を覆ったのだろうか。オノマトペの遊戯性がよい。

### 水原 紫苑 選

ふと夜をあかるく思う記憶にはない鳥がまだこの世にはいて
東京 境 千尋

〈評〉この世の関節が外れる瞬間である。あかるい夜に飛んでゆくあたらしい鳥はあなただろうか。

### 伊藤 一彦 選

評判のいいラーメン屋探しゆく山形市民のサードプレイス
山形市 佐藤 紀之

〈評〉第3の場所とは自宅などと別の居心地のいい場所。それがラーメン屋というのが面白い。さすがラーメン県・山形。

### 米川千嘉子 選

花の名をさらりと言って老いてゆく認知の祖母に蕾は開く
奈良市 浦城 亮祐

〈評〉花が好きで名前もよく知っていた祖母。そんな祖母に名を言ってほしいとでもいうようにつぼみが開く。下句が印象的だ。

## 調べの鼓動

# 海と俳句

星野高士

・寛容の繋ぐ浜辺や平和の海

俳句によって結ばれるご縁がある。千葉県の勝浦にヘルマン・ファンロンパウさん(78)の句碑ができる。「誰だろう」と思われるかもしれないが、ベルギーの政治家で首相を務められたほか、欧州連合（EU）大統領もされた方だ。

この方は俳句においてもただ者ではない。長年俳句を詠まれており、過去、句集を出されたこともある。さすがに日本語ではなく、現地の言葉で詠まれているが、込められた精神や、簡潔な表現は日本語の俳句と変わらない。

句碑が建つ勝浦の隣に、御宿という町がある。私は数年前から、隔月で御宿にて句会をしている。御宿も俳人の多い町で、楽しく句会をやっている。

私もご縁のある土地ということや、国際俳句協会の会長をしているなどの理由もあり、句碑に刻まれる俳句の選定に協力することになった。とはいっても、ファンロンパウさんは熟練の俳人。元々ご自身で厳選されてはいたが。俳句は難しいもので、作者は良いと思っていても、読者は良いと思わないことがよくある。他人の目を通すのは大事なことだ。

句碑除幕式は7月9日。日本語と英語、両方の表記で句碑に刻まれる。句碑からは海がよく見える。勝浦という町は、その名の通り海の美しい町だ。ファンロンパウさんも勝浦や御宿が好きだという。ご自身の俳句を日本の海に飾るというのは、珍しいご縁だと思う。海のように俳句の縁が世界に広がっている。折しも今年はベルギーと日本の国交樹立160周年である。

（ほしの・たかし＝俳人）

作品募集
は、戦争や
を募集しま
）で受け
（必着）。
ります。
こちらから
投稿できます